

加守田章二

大阪府岸和田市出身で、戦後、活躍した陶芸家。京都市立美術大学(現・京都市立芸術大学)で陶芸を学び、卒業後、栃木県益子町や岩手県遠野市で制作活動を行った。晩年の一時期は東京都東久留米市で制作した。数々の賞を受賞したが、陶芸家として初の高村光太郎賞を受賞している。49歳という若さで亡くなるまでの20余年ほどの間に、旺盛な制作意欲で絶えず作風を変容させ、現代陶芸の新しい分野に挑戦し続け、次々と斬新な作品を生み出していった。既存の陶芸という枠組みを超越し、大胆かつ緻密な造形と文様の密度は、後に続く陶芸家たちに影響を与えている。